

<創立記念礼拝> 聖霊降臨節第2主日

6月7日 10:30~11:30

1 黙 祷

2 賛 美 21-494

3 聖 書 ローマの信徒への手紙

3章 21~26節(新P277)

4 説教と祈り 「神の義に依って」有馬尊義

5 賛 美 21-390

6 各々の祈り

7 主の祈り

(家庭礼拝の例です)

※讃美歌は著作権の関係で録画配信しません。

<今週の聖句> ローマの信徒への手紙 3章 22節

すなわち、イエス・キリストを信じる者すべてに与えられる神の義です。そこには何の差別もありません。

【次週(6月14日)の礼拝】

聖日礼拝

聖書：マタイによる福音書 19章 1~12節

説教：「神が結ぶもの」有馬尊義牧師

讃美歌：21-494、21-540

西荻教会ホームページ URL

<https://www.nishiogi-g-y.com/nc/>



本日は創立記念礼拝です。礼拝堂に集まるのが感染症のために妨げられた中ですが、同じ御言葉に養われ、聖霊によって一つとされるところは変わりません。神の義に依っているからです。

教会は、神の義に依って新しい時代、新しい場所、新しい宣教へと踏み出してきました。西荻教会も、その源流というべきものは新しい宣教の地である日本を訪れた英国バプテスト教会によって福音が伝えられたことから始まりました。第二浸礼教会です。その後も教会の場所や名前も変わり現在の西荻教会となって70年を迎えました。

そして今、教会は礼拝を感染症によって脅かされる時代となりました。一緒に集まることができない中でどうやって礼拝を継続するのか。そもそも集まることができないのに、礼拝と呼べるのか？神様を礼拝することと、信徒の命を守ることのどちらが大事なのか。全世界の教会が新しい時代の中で、神様を礼拝する本質を問われています。しかし、何があろうと変わらない神の義の恵みの中に教会は生かされ続けていきます。使徒たちの時代も、迫害の時代も、その後のいかなる時代の困難の中でも「神の義」は揺らぐことはありませんでした。それは今、新型コロナウイルス感染症によって集うことを妨げられている教会でも同じです。各教会はそれぞれの事情の中である教会は礼拝堂に集うことを中止して、ネットの配信や郵便で説教を届けたりして、場所が異なっても一つの群れとして礼拝をする方法を模索しています。逆に、この困難の中で何とかして「集まる」ことの大切さを守ろうと、礼拝の数を増やして礼拝出席者を分散させている教会もあります。その考えも対応も様々で、科学的な面で何が正しかったかは後の時代の人々が裁くことでしょう。

しかしどのような時にも教会が依っているのは「神の義」です。神の義に依って、教会は歩む道を見出し、どのような形や手段をとろうとも教会であり続けることができます。

それでは、どのような時でも教会が依るべき神の義とはどのようなものでしょうか。神の義につ

いて本日の聖書は語っています。

「神の義」はもともと神様の正義の尺度として理解されてきました。私たちの行いや信仰を量る尺度です。神の義に適う者が救われ、そうでない者は滅びるという風にです。ですから、神の義の尺度で正しく生きることが最も大事なことでした。正しいことが最も大事なことでした。正しい「功德」を積むことが大事だとされたのです。

「ところが今や」、イエス様が来られ、神の義に適わない私たち罪人の贖いとして十字架にかかってくださり、私たちに例外なく救いの道を拓いてくださいました。神の義とは、神様が人間を裁く尺度ではなくて、イエス様の十字架の救いを通して罪人である人間が「義」とされること、神様によって「義」が与えられることだということが明らかになったのです。

つまり、神の義とは人間を裁くためにあるのではなく、徹底的に救うための恵みを意味しているのです。これは新しい信仰ではなくて、本当はいつも神様が私たちに語りかけて来られたことでした。罪人が立ち帰るならばどれほどの罪の汚れに染められようとも、雪のように白くしてくださる方が私たちの神様です。イエス様の十字架がそのことをはっきりと私たちに与えてくださいました。

教会は与えられた主イエス・キリストによる神の義を信じ、宣べ伝えてきました。教会が依るのは、どんな中でも新しい時代を切り開いていく新しいのちを与えてくださる十字架と復活の恵みとしての神の義です。信じる者すべてに与えられるこの神の義に依ってこそ、困難の時に、人間の力に頼る誘惑、そこで起こる成功や失敗、栄光や挫折から、優越感や劣等感、誇りや妬みから自由になります。

様々なものがほころびを見せ、私たちが当たり前と思ってきたことが大きく変わっていくことを余儀なくされる時代です。しかし、変わらない恵みの神の義が教会には与えられています。そこにしっかりと依っていくならば、試みも困難も、神様が示される恵みの道行きとなります。私たちの今見ているものを越えた、希望に生きる道が与えられます。